

人生の転機となる日々を過ごしましょう。

文責 学校長



～コロナに加えて熱中症にも十分注意しましょう～

期末考査、進研模試がおわりほっと一息ついていることでしょうか。3年生は本日から1泊2日で熊本に修学旅行に行っています。水曜日には「クラスマッチ」が予定されています。感染対策、熱中症対策をして楽しんでください。

1 君たちのチャレンジを待っています。

第11号で紹介した各種コンクール・コンテストの第2弾です。期末考査が終わり、進研模試を終え、時間的に余裕のあるこの時期は実績づくりに取り組むいいチャンスです。特に1・2年生の中で、推薦入試（総合選抜型入試）を進路選択の一つに考える人は、合格に向けた実績づくりに取り組んでおく必要があります。コンテストの中には副賞として海外研修旅行が贈呈されるものもあります。まず、チャレンジしてみよう。添削指導大歓迎です。アイデアのヒントから文章表現の添削まで希望する人は遠慮なく校長室を訪ねてください。

【諸君のチャレンジを待っている企画】(第2弾)・・・()内は締切日です。

◇神奈川大・全国高校生俳句大賞 (9/3)	◇世界エイズデーポスターコンクール (9/6)
◇国土緑化運動・育樹運動標語募集 (9/7)	◇拓殖大学・全国高校生・留学生作文コンクール (9/8)
◇野村総研(NRI)学生小論文コンテスト (9/10)	◇全国高校生文芸コンクール (9/10)
◇多摩大学・全国高校生小論文・スピーチコンテスト (9/10)	◇明るい選挙啓発ポストコンクール (9/10)
◇国学院大学・全国高校生創作コンテスト (9/10)	◇全国高校生童話大賞 (9/10)
◇令和の年金広報コンテスト ポスター・動画 (9/10)	◇佐賀さいこう企画甲子園 (9/10)
◇JICA国際協力エッセイコンテスト (9/11)	◇ジュニア料理選手権 (9/13)
◇浦和大学・おもちゃコンテスト (9/21)	◇高校生ビジネスグランプリ (9/22)
◇北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール (9/24)	◇福岡大学・全国高校生川柳コンクール (9/30)
◇「わたしのまちの〇と×」環境フォトコンテスト (9/30)	◇酒折連歌賞募集 (9/30)
◇パテント・デザインパテントコンテスト (9/30)	◇山地災害防止標語・写真コンクール (9/30)

前回紹介したのものも含めて、詳しい資料は担任の先生や担当部署の先生にお尋ねを。

2 高校野球が開幕します。初戦は7月10日(土)第3試合(対唐津青翔)です。

昨年度中止となった夏の甲子園大会は今年度は開催が決まっています。その出場権を懸けた野球部の挑戦が始まります。今回は一般客の応援も可能となっています。検温・マスク・問診票の記入が条件です。ケーブルテレビでも中継放送されます。応援よろしくお祈りします。

3 今週の名言・・・徳川初代将軍・徳川家康の言葉です。

人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。ここに望みおこらば困窮したる時を思い出すべし。堪忍は無事長久の基、いかりは敵と思え。勝つ事ばかり知りて、負くること知らざれば害その身にいたる。おのれを責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるよりまさり。

【解説】徳川家康公の遺訓と言われている言葉。いわば辞世の句のようなもの。人生訓として座右の銘にする人も多いそうです。自分も高校時代、受験勉強に勤しむ机の上に掲げて戒めとしていたのを思い出します。この言葉は「人の一生というものは、重い荷を背負って遠い道を行くようなものだ。急いではいけない。不自由が当たり前と考えれば、不満は生じない。心に欲が起きたときには、苦しかった時を思い出さずことだ。がまんすることが無事に長く安らかでいられる基礎で、怒りは敵と思え。勝つことばかり知って、負けを知らないことは危険である。自分の行動について反省し、人の責任を攻めてはいけない。足りないほうが、やり過ぎてしまっているよりは優れている。」という意味です。織田信長や豊臣秀吉と比べ、我慢・忍耐の人と言われる徳川家康。その家康の生涯を表すものとしてこれほどまでに優れた名文で、人生の困難に対して家康がどう向き合ったのかがわかるものは、他にはないでしょう。現代に生きる私たちにも人生の助けとなるような生きるヒントが数多く隠されています。家康の言葉は、数百年の時を超え、私たちに生きる知恵を与えてくれています。

4 今週のお話成語・・・「画餅に帰す」【問題】英語で表現すると？

絵に描いた餅は食べられないことから。計画などが実現できなくて、無駄に終わることのたとえ。

(出典：『三国志』より)

【由来】『三国志・魏書』に「選挙するに名有るを取る事莫かれ。名は地に画きて餅を作るが如く、啖うべからざるなり(人を選び推挙する際には、世の中の評判に頼って選んではいけない。名声などというものは絵に描いた餅のようなもので、食べることはできず、役に立たないのだから)」とあるのに基づきます。「画餅」が「がへい」とも読みます。「画餅に帰す」「画餅に属する」「画餅に終わる」「絵に描いた餅に終わる」ともいいます。

5 どこがおかしい日本語(その14)・・・どこが間違いかわかりますか？

- ①圧倒的に負けた ②サラリーマンから足を洗う ③私は〇〇先生の教え子です ④娘十八、番茶も出花 ⑤お白粉

6 今週の一冊・・・青山美智子の『お探し物は図書室まで』（ポプラ社）です。

お探し物は、本ですか？仕事ですか？人生ですか？悩める人々が立ち寄った小さな図書室。不愛想だけど聞き上手な司書さんが思いもよらない選書と可愛い付録で人生を後押しします。『木曜日にはココアを』の著者が贈る、明日への活力が満ちていくハートウォーミング小説。（参考：本書裏表紙説明より）

【解説】本屋大賞第2位輝いた小説です。同じ街に住む別々の5人のそれぞれの人生がふとしたことで訪れたコミュニティハウス内にある町の小さな図書館の司書さんとの出会いをきっかけに大きく動き出すというストーリーになっており、第1話を読んだ時点で、「面白い」「上手い」と言わずにはいられない作品になっています。いくらでも続編がかけそうで、きっとテレビドラマ化・映画化されそうな物語です。仕事や人生に行き詰まりを感じ、人生に悩む人々の背中を、不愛想だけど聞き上手な司書さんが、思いもよらない本のセレクトで人生を後押ししてくれます。紹介されている本にも興味をそそられます。**5人の主人公が本当に「探している物」に気がつき、明日への活力が満ちていく様が何とも心地よい小説です。**人生の岐路にある大人の方にもお薦めしたい一冊です。是非ご一読を。

【作者・青山美智子について】1970年生まれ、愛知県出身。大学卒業後、シドニーの日系新聞社で記者として勤務。2年間のオーストラリア生活のち帰国、上京。出版社で雑誌編集者を経て執筆活動に入る。第28回パレットノベル大賞佳作受賞。デビュー作『木曜日にはココアを』が第1回宮崎本大賞を受賞。同作と2作目『猫のお告げは樹の下で』が未来屋小説大賞入賞。（参考：本書表紙裏の著者紹介文より）

7 世界遺産を巡る・・・第14回は石見銀山遺跡とその文化的景観（登録年：2007年）

【解説】石見銀山遺跡は日本海に面する島根県のほぼ中央に位置し、石見銀の採掘・精錬から運搬・積み出しに至る鉱山開発の総体を表す「銀鉱山跡と鉱山町」、「港と港町」、及びこれらをつなぐ「街道」から成っています。この遺跡は、東西世界の文物交流及び文明交流の物証であり、伝統的技術による銀生産を証明する考古学的遺跡及び銀鉱山に関わる土地利用の総体を表す文化的景観としての価値を持っています。対象となる遺跡・地域は、**銀山柵内、代官所跡、矢滝城跡、矢筈城跡、石見城跡、大森・銀山、宮ノ前、熊谷家住宅、羅漢寺五百羅漢、石見銀山街道鞆ヶ浦道、石見銀山街道温泉津・沖泊道、鞆ヶ浦、沖泊、温泉津重要伝統的建造物群保存地区**です。（参考：文化庁HP『日本の世界遺産一覧』より）



釜屋間歩（かまやまぶ）

8 街角グルメを訪ねて・・・第14回は唐津市の「fun」です。

前回に続いて唐津市のパン屋の紹介です。唐津市役所のそばに新しくオープンした「fun」は地元の新鮮な果物や野菜を使ったサンドイッチのテイクアウト専門店です。豊富な種類のフルーツサンドや照り焼きチキンサンドなどのほか、ピクルスもそろえています。開店前から行列ができ、昼すぎには完売する人気ぶりです。オーナーの中原千恵さんは3年前から農業を始め、「野菜の端材を何か使えないか」とキュウリ20アールを栽培するフードロスの観点から廃棄される野菜をピクルスで活用しようと思ったのが店を始めるきっかけだったそうです。サンドイッチの素材は自家栽培のほか友人の農家、市場から調達しています。生クリームに、マスカルポーネ（チーズ）や水切りヨーグルトなどと合わせ、「断面を見せ、かわいさを求めて正方形にしたそうです。定番に加え、季節の果物で作る日替わりメニューも並べています。店名は「すべてが楽しいのために」という思いを込めて「fun」にしたとのこと。サンドイッチは400～450円。キュウリやサツマイモなどのピクルスは1個500円。スムージーは500円。コーヒー（250円）とサンドイッチのセットは500円。



9 保護者の皆様へ・・・「進路指針」を発行しています。ご覧ください。

「進路指針」を発行・配付しています。今春卒業した生徒の合格体験記や入試制度の仕組みから進学に必要な学費や奨学金の情報も載せていますので、保護者の方も是非ご覧ください。

【英語】◇ to come to nothing ◇ to end in failure ◇ to fall through

【正解】①圧倒的に勝った ②泥棒稼業から足を洗う ③私は〇〇先生に教えを受けた者です。

④鬼も十八、番茶も出花 ⑤白粉

【解説】①「圧倒的」というのは、他とかけ離れて優れていることを意味する語なので**敗北のような否定的な場合には使わない**。②「足を洗う」は「それまで関係していた**良くないことから抜け出す**」ことを意味する語。③「教え子」とは**教えた人が使う言葉**です。先生の方が「〇〇君は私の教え子です」と使うのが正しい。④意外と間違っていて覚えている人が多い言葉です。元々は「鬼のようなおそろしい顔をした者でも、十八歳の娘盛りのころには美しく見え、品質の劣る番茶でも、湯を注いだばかりの時は香りもよく、上煎茶に劣らぬくらい美味しい」という意味の言葉。どんなつまらないものでも、いい時期があるということ。⑤「**白粉**」と書いて「**おしろい**」と読みます。「お白粉」と書くと「おおしろい」となり間違いになります。

